

巻頭言

「スマスマ字幕問題」

理事長 新谷 友良

SMAPの解散を巡る「SMAP×SMAP」での5人の記者会見に字幕が付かなかったことがいろいろなところで話題になっています。フジテレビが「都合により字幕放送を休止」と説明したために、「都合とは何だ?」とか「都合で字幕放送をやめてよいのか?」と様々な意見がインターネットでは飛び交っているようです。

平成29年までに字幕付与のできる番組にはすべて字幕を付けるというのが総務省の指針で、災害時の生字幕なども含めて対象になっていることはみなさんよくご承知のことと思います。フジテレビのいう「都合」とは何か? かなり想像力を働かさないと思いつきません。

緊急の記者会見だったので、機材・スタッフの準備が整えられなかった、という説明が考えられますが、SMAPの記者会見より緊急なことは多々ありますし、そのような緊急放送も今はかなりの程度で字幕が付いています。また、記者会見の内容が非常に微妙なので、生字幕を付けることが困難という説明もあるかもしれませんが、この理由を持ち出すと「字幕とはそもそもなんだ?」という話に発展してしまいます。

現在、生字幕がはっきりと付いていないのは、国会中継です。以前、障がい者制度改革推進会議で議論があったときは、理由は「国会中継では、発言内容を正確に伝える必要があるので…」と説明されていました。また、「声を直接聞くことは正確な理解をもたらすが、声を文字に置き換えると本人の発言内容が正確に伝達されない可能性がある」といった説明もあったように記憶しています。しかし、この考え方はずいぶん偏見に満ちたものであるし、目の見えない人・耳の聞こえない人・文字を読んで理解することが困難な人が混ざり合って生活している私たちの社会のコミュニケーションを「聞いて理解することが正しい」という随分乱暴な基準で切ってしまうと思います。

SMAPの記者会見と国会中継とを同列に置くのは問題かもしれませんが、どちらにも「文字にしてしまうと話している内容がはっきりしすぎてしまう、文字にしてしまうと発言の真意が異なって取られる」という考えがありそうです。文字化しないコミュニケーションというのは、ある人たちにとっては便利なものなのか、と穿って考えてしまいます。